

白山市

宮永ほじ川遺跡 みやながほじがわいせき

はくさんしほくぶ かなざわし せんじょうち
 宮永ほじ川遺跡は白山市北部、金沢市との市境に近い扇状地に
 へいあんじだい むろまちじだい しゅうらくあと かまくらじだい
 立地する、平安時代から室町時代の集落跡です。鎌倉時代(約
 みょうしゆ
 800年前)には館を中心に名主層及び一般農民の居住域が広がる集
 むろまちじだい
 落として始まりました。集落の中核となる館は室町時代(約650年
 さいせいき
 前)を最盛期とし、以降は次第に規模が縮小し、その後は集落として
 はくつちようさ
 の機能が停止したと考えられています。発掘調査では、集落の中心
 ほったてばしらたてもん どうこうぼ さいしいこう
 となる館跡の周囲に多数の掘立柱建物や井戸、土坑墓、祭祀遺構
 いぶつ しゅつど
 などが見付き、多種多様な遺物が出土しています。井戸からは
 きゅうきゅうによりつりょう ぼくしよ ものいみふだ
 「急々如律令」と墨書された物忌札が出土し、当時のまじ

ないの様子を今に伝えています。



宮永ほじ川遺跡の出土遺物



遺跡の位置図

古宮遺跡 ふるみやいせき

てどりがわせんじょうち せんちようぶ はくさんし
 古宮遺跡は手取川扇状地の扇頂部に位置し、白山市指定名勝
 あくど ふち かがんだんきゅう
 「安久涛の淵」に隣接する河岸段丘上にあります。遺跡の南東
 しらやまひめじんじゃ
 約400mには白山比咩神社があり、遺跡周辺には白山比咩神社の
 はくさんぐう ぶんめい
 前身である白山宮が文明12年(1480)まで所在したと伝わり
 はくつちようさ へいあんじだい
 ます。平成8年(1996)に行われた発掘調査で、平安時代後
 ほったてばしらたてもんあと そせきたてもんあと しゅう
 半(約1050年前)以降の掘立柱建物跡や礎石建物跡、集
 せきいこう
 石遺構などが見つかりました。集石遺構は一辺約4m四方の方形
 はじきさら
 で、河原石を敷き詰めた上に大量の土師器皿が埋められており、
 さいしこうい いこう
 祭祀行為に関わる遺構であると見られています。



古宮遺跡の遠景

写真中央が古宮遺跡、
右上奥方向に白山比咩神社がある。



遺跡の位置図

※国土地理院の電子地図に加筆掲載